気仙沼市立鹿折中学校　　令和３年１月８日（金）　第１４号

校長室だより

校長　菅原　定志

「新年を迎えて」

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。また昨年同様，本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう，お願いいたします。

本日，３学期の始業式を行いました。生徒に話した式辞の一部を紹介します。

「明けない夜はない」。

この言葉は，シェークスピアの「マクベス」で言われる台詞です。

新型コロナウイルスの問題で，日本では先の見えない状況が続いています。そんな時であっても解決に向けて「明けない夜はない」と信じて，互いに手を取り合って，協力をしていきましょう。

令和３年，2021 年，校長先生は，これまで以上に笑顔があふれ，何事にも挑戦する学校をつくっていきたいと思っています。そのために，校長先生は，これまで以上に皆さんが挑戦しようと思えるものを提供したいと考えています。でもそれだけでは十分ではないと思います。ぜひ皆さん自身が，挑戦するものを見つけたり，さらには皆さんから，こんなことをやってみたいというような新たなアイディアを出してもらったりしたいと思っています。特に，皆さんからの斬新なアイディアを楽しみにしています。全校生徒と先生で，令和３年，2021 年の鹿折中学校を，笑顔があふれ何事にも挑戦する学校にしていきましょう。わくわくする毎日が過ごせることを祈って，式辞とします。

このような時代だからこそ，これからも，前向きになれる言葉を生徒に語り続けていきたいと思っています。

さて，今年は「丑年」です。牛が十二支になった話や牛と神様に関する話はたくさんありますが，その中のいくつかを紹介します。

牛は昔から食料としてだけでなく，農作業や物を運ぶときの労働力として，人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し，身近にいる縁起の良い動物として十二支に加えられたという言い伝えがあります。

さらに，学問の神様の菅原道真をまつる天満宮（天神様）には丑（牛）の像が置かれています。これは「菅原道真が丑年だった」や「黙々と働く牛の様子は道真の教えにも通ずるものがある」「牛を神の使いとして祀っていた」などいろいろな理由があるようです。気仙沼のお天神さんにも，写真のように牛の像が置かれています。牛には神に近い尊いイメージがあるようです。

令和３年，2021 年は『神に近い』とされる牛が干支です。

一日も早く新型コロナウイルスが終息し，『神に近い』牛が活躍し，縁起の良い１年になってくれるものと信じて，生徒とともに前向きに過ごしていこうと思っています。